

第 73 回 『シグマート錠』

中外製薬 宮澤さん

参加者：近藤、味田村、生越、佐藤(綾)、小西(絵)、松本、伊藤、遠藤、小西(航)

動脈硬化などにより、心臓に栄養や酸素を送るための血管（冠動脈）が細くなってしまふ病気として狭心症がある。狭心症では、心筋へ十分に血液が送られていない状態（心筋虚血）に陥るため、胸に激痛が起こる。そこで、これら狭心症の症状を改善するために使用される薬としてシグマート（一般名：ニコランジル）がある。シグマートは硝酸薬類似薬と呼ばれる種類の薬である。

【効能・効果】

狭心症

【用法用量】

ニコランジルとして、通常、成人 1 日量 15mg を 3 回に分割経口投与する。なお、症状により適宜増減する。

【特徴】

ニトログリセリンは強力な冠動脈の血管拡張作用があるため、狭心症に対して劇的な改善効果を有する。ただし、ニトログリセリンは肝臓で代謝されやすい性質がある。腸から吸収された薬は、必ず肝臓で代謝を受けた後に全身の血管をめぐる。ニトログリセリンは肝臓を通過したとき、ほぼ 100%が代謝されるため、口から投与してもその効果を発揮することができない。そのため、ニトログリセリンは肝臓の通過を免れるために舌下から投与する必要がある。ただし、やはりすぐに代謝されるために長時間の効果は期待できない。また、ニトログリセリンは冠動脈以外にも、全身の血管へ作用することで、過度の血圧降下などの副作用をもたらす。そこで、血管の中でも「冠動脈に対して選択的」に作用し、「肝臓での代謝に多少耐えられる」ようにすることで、「経口投与」や「薬の持続的な作用」を得ることに成功した薬がシグマートである。シグマートは冠動脈への血流量を増加させ、各種狭心症の症状を改善する作用が知られている。また、冠動脈への選択性を高めたとは言っても、全身の血管に作用することによる血管拡張作用もある。血管が広がると、その分だけ血圧が下がる。そのため、シグマートは血圧をやや低下させることで、心臓の負担を軽減させることができる。このような特徴により、主に冠動脈の血管を拡張させることで心臓への負担を改善し、狭心症を治療する薬がシグマートである。

【副作用】

総症例数 14, 323 例中、661 例 (4. 61%) 817 件に副作用（臨床検査値異常を含む）が認められた。主な副作用は、頭痛 515 件 (3. 60%)、嘔気・嘔吐 63 件 (0. 44%)、めまい 21 件 (0. 15%)、ほてり 20 件 (0. 14%)、けん怠(感) 17 件 (0. 12%) であった。（再審査終了時）

【考察】

シグマートを含め、硝酸薬の服用を開始したときに悩む頻度の多い副作用として頭痛がある。シグマートには血管拡張作用があるため、脳の血管まで広がってしまうことで脳神経が圧迫され、頭痛を生じてしまう。特に飲みはじめでは頭痛を生じやすい。徐々に痛み慣れてくると一般的にいわれているが、痛み慣れてなかったり、我慢できなかつたりする場合、薬の量を少なくしたり中止したりする必要がある。薬による頭痛を緩和する方法

としては、飲んでいる薬をやめる以外に方法はない。解熱鎮痛剤などを処方してもらうという方法もある。このため、初期の副作用に関しては十分に注意しなければならない薬でもある。